

# 設立趣旨書

近年、人工知能（AI）技術の医療分野への応用が急速に進んでいる。画像診断支援AI、生成AIによる臨床意思決定支援、創薬研究への機械学習の活用など、医療AIは日常診療において不可欠な技術となりつつある。しかしながら、多くの医療従事者はAI技術に関する体系的な教育を受ける機会に乏しく、医療AIリテラシーの不足が深刻な課題となっている。一方、AI技術者にとっても医療現場の課題やニーズを理解する機会は限られており、医工連携人材の育成基盤が十分に整備されていない。こうした状況において、医療従事者がAIの基本概念を正しく理解し臨床現場で適切に活用できること、またAI技術者が医療の特性を踏まえた技術開発に携わることが、医療の質の向上と安全性の確保に不可欠である。そのためには、中立的かつ体系的な学びと交流の場が、医療従事者・研究者・学生及び広く一般市民に対して提供される必要がある。

私たちは2023年4月、任意団体「AcademiX Medical」を発足し、この課題に取り組んできた。以来約3年間にわたり、（1）オンライン勉強会の定期開催とYouTubeでの無料アーカイブ公開、（2）Slackを活用した論文紹介・AIツール活用法・講演会情報等の共有、（3）オンライン交流会や共同研究・コンペティション参加の支援を行ってきた。全ての活動を完全無料で提供し、特定の企業や機関に依存しない中立的な運営を貫いている。2025年1月からは対象を学生以外にも拡大し、広く一般市民に開放した。

法人設立後は、定款に定める以下の3事業を柱として活動を展開する。第一に「医療AIに関する教育及び人材育成事業」として、オンライン勉強会の継続・拡充及び動画アーカイブの無料公開を行う。第二に「医療AIに関する情報の収集及び発信事業」として、Slackコミュニティ及び法人Webサイトを通じた最新情報の発信を行う。第三に「医療AI分野における交流及び連携促進事業」として、オンライン・対面の交流イベント開催及び共同研究・コンペティション参加のマッチング支援を行う。これらの活動は、医療従事者、研究者、学生及び広く一般市民に対して開かれたものであり、不特定かつ多数のもの利益の増進に寄与するものである。

任意団体としての活動に実績を積んだ今、組織基盤を強化し持続可能な活動とするため、特定非営利活動法人格の取得を目指すこととした。NPO法人格の取得により、大学・病院・企業との連携における社会的信用が向上するとともに、助成金や寄付金の受入れが円滑になり、活動の拡充が可能となる。また、所轄庁による監督の下で透明性の高い運営を行うことは、公共財としての信頼確保に資するものである。将来的には認定特定非営利活動法人の取得を視野に入れ、より幅広い支援を得ながら、医療AIリテラシーの向上を通じて保健、医療及び福祉の増進に寄与していく所存である。

以上の趣旨により、特定非営利活動法人日本医療AIリテラシー協会を設立する。

令和8年3月5日

法人の名称 特定非営利活動法人日本医療AIリテラシー協会

設立代表者 野田 竜之介